

一般対抗で圧勝した綱引き



本校の応援団



部対抗 弓道部

第76回定期戦開催

両校のプライドをかけた熱い戦い



玉入れ競技開始の瞬間



部対抗 硬式野球



前高通信

蛟龍から風

令和4年10月24日(月)

第18号

発行

群馬県立

前橋高等学校



今年こそは勝利を手にしたい前橋高校であったが、大健闘の末惜敗。またしても苦杯を嘗める結果となった。

実行委員長を務めた松村息吹君(3年)は、「敗北は本当に悔しいが、3年生を筆頭に、一般対抗ではその圧倒的な力を高崎に見せつけた。来年こそは凱旋歌を轟かせてほしい」と語った。3年生の想い、技術を伝承し、来年こそは優勝杯を前橋高校に取り戻してほしい。

定期戦は、互いにライバル校として切磋琢磨する、前橋高校と高崎高校による長い歴史のある戦いである。毎年、両校の実行委員の幹部が事前に協議会を重ね、競技方法などについて議論し、そこでの決定事項に基づいて本番の競技や、各校での練習が行われる。勝敗は、部対抗と一般対抗の勝ち点の合計で決定される。一般対抗には、駅伝や綱引き、玉入れ、長縄などがあり、校内競技大会での記録を基に選手選考が行われる。部対抗は、定期戦の当日に行われる部もあれば、会場の関係で事前に行う部もある。

9月22日、本校に高崎高校を迎え、第76回定期戦が開催された。昨年は新型コロナウイルスの影響で分散開催となったが、今回は分散を実施せず、前橋高校をホームとして競技を行った。

定期戦は、互いにライバル校として切磋琢磨する、前橋高校と高崎高校による長い歴史のある戦いである。毎年、両校の実行委員の幹部が事前に協議会を重ね、競技方法などについて議論し、そこでの決定事項に基づいて本番の競技や、各校での練習が行われる。勝敗は、部対抗と一般対抗の勝ち点の合計で決定される。一般対抗には、駅伝や綱引き、玉入れ、長縄などがあり、校内競技大会での記録を基に選手選考が行われる。部対抗は、定期戦の当日に行われる部もあれば、会場の関係で事前に行う部もある。

直近の前高生の活躍

いけいけ前橋!

剣道部 9月11日(日)に開催された、群馬県学校対抗選手権大会の団体戦において優勝した。本大会での優勝は4年ぶり8度目となる。個人戦においては、石原侑武君(2年)が優勝、吉田佳樹君(2年)が準優勝、遠藤龍君(2年)が3位、大上環君(2年)が5位に入賞という結果であった。個人戦優勝の石原君は、来年4月に大阪で行われる全日本都道府県対抗の群馬県代表に推薦された。



剣道部



山岳部

9月17日(土)に開催された、群馬県新人登山大会において団体戦優勝、個人戦で村田侑紀君(1年)が4位、小林大翔君(2年)が5位、樋谷和真君(2年)が8位に入賞した。

陸上競技部 9月17日(土)、18日(日)に開催された、群馬県学校対抗陸上競技大会(2部)において、飯塚柊翔君(2年)が走幅跳で4位、星野大翔君(2年)が800mで準優勝し、神奈川県で行われる関東大会出場を決めた。

また、同月3日実施の群馬県学校対抗(2部)において、平澤遥君(3年)がやり投げで優勝、飯塚君が走幅跳で優勝した。

1学年 探究基礎中間発表会



9月30日(金)に群馬大学と共愛学園前橋国際大学から講師を招き、課題研究のテーマ、仮説、研究方法等について発表を行った。生徒たちは、専門家の視点から、貴重な指導助言を受けることができた。

2学年 修学旅行に向け平和学習



2学年は来月に実施予定の、広島方面への修学旅行の事前指導として、平和学習を実施。10月12日(水)には、被爆体験伝承者の橋光生様を迎え、講演をいただいた。

また、同月19日、ウクライナから避難し、前橋市で日本語を学習している学生を招待し、祖国の現状や、自身の体験について語った。話を聞いた藤本和叶君は、「時に涙をこらえながらも話をしてくれた。今までテレビの中で見聞きするだけで、遠くのできごとのように感じていたが、自分自身もこの問題について真剣に考えられるようになった」と振り返った。



地蔵岳山頂にて

3学年 遠足

3学年は学年の行事として、10月12日(水)に赤城山での登山を開催した。本校山岳部の教員、部員が中心となり、無事に全行程が終了した。自然に癒され、受験勉強の束の間の休息となった。